

函館おしま病院ホスピス病棟のチームステーションにて

ホスピスケア 超難関の認定看護師 に道南で最初の合格

1冊の本との出会いがホスピスケアの出発点

医療法人敬仁会

函館おしま病院 病棟主任

さかい

ちよ

堺 千代さん

だらけの毎日が嫌で、看護師には向かないと思っていました」。しかし、そんな堺さんも職場の先輩に励まされ、仕事に対する気持ちも徐々に変化してきた。

大学の付属病院は、県内各地からやってくる重症患者の最後の砦でもある。堺さんも看護をする多くのケースが、末期がんなどターミナルの患者だった。

「当時の医療は患者さんが手術を拒んでも、手術をして元気になりましょう、さあ頑張らしましょうという姿勢ですよ。でも、実際には、それで患者さんの状態が良くなったという例をほとんど経験していません。ぎりぎりまで治療することへの疑問がいつも頭の中で膨らんでいました」

看護師となつて二年目、堺さんは一冊の本に出会った。山崎章郎著「病院で死ぬということ」（1990年刊）。ホスピス医を目指した山崎先生（現聖ヨハネ会総合病院桜町病院ホスピス科部長）の終末期医療への取り組みの体験的手記である。

「こういう医療の世界もあるのかと衝撃を受けました」

苦しんだり、みじめな思いをしている患者にもつとできることとは何だろうか。「ホスピスだったからそれができるかもしれない」と堺さんは思った。一冊の本との出

い看護実践ができることを認められた者。十四の分野に分かれているが、これまでの登録者は全国でも一千二百人ほどしかない超難関の資格である。

看護師の出発点は岡山大学
医学部付属病院

堺さんは福岡県福岡市に生まれ

七月七日の七夕の夕方、一枚の合格通知が堺千代さんに届いた。「ホスピスケア認定看護師」。

その日、北海道で四人目、道南では最初のホスピスケア認定看護師が誕生した（認定看護師として「道南初」）。認定看護師とは日本看護協会が認めた資格認定制度で、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高

会いが、堺さんをホスピスケアへの道へと突き進ませた。

栄光病院のホスピス病棟で 九年間勤務

福岡に戻りたいという思いもあり、当時、すでに九州で最初のホスピスが開設されていた栄光病院（福岡県粕屋郡志免町）へ移ることに決めた。そしてすぐに希望したホスピス病棟へ配属となる。

栄光病院はキリスト教の精神に基づいて、日常診療から救急医療、在宅医療、終末期医療（ホスピスケア）にと、人間の全生涯にわたる地域に開かれた病院として、医療に取り組んできた。堺さんはここで九年間を過ごした。

「患者さんやそのご家族から、この仕事を続けてねと言われることがとても励みとなりうれしかったです」

緩和ケアナース養成研修の研修施設にもなっていた栄光病院で堺さんは教育担当となった。教える立場となり「自分にも勉強が必要」と考えて、認定看護師のことを意識するようになる。

「決断の早さは昔から」という堺さんは、早速、認定看護師の教育施設である日本看護協会看護研修学校（東京都清瀬市）を受験、一昨年の十二月下旬に学校の入学

試験に合格した。専門科目の筆記試験のほか、「これまでどういうケアをしてきたのか」について的小論文や面接もあった。

病院に認定看護師研修施設に入学したことを伝えるとその研修費用は出してくれると思ったが、自分で認定看護師を目指すこととして、病院を退職した。

—— 背水の陣でしたか？

「そんな大袈裟なことではないですよ」と堺さんはいうが、研修を受ける人のほとんどが病院から派遣されているのが実際である。

入学金や六カ月の学費、さらには寮の生活費など必要となるお金は少なくない。さらに、自費であればこそ、強い覚悟と精神力がなければ続けることはできないはず。「自費での入学だったので他の人よりは（合格への）プレッシャーはなかったですよ」とは、今だからこそ言えるのだろう。

東京の清瀬市の施設で六カ 月間の研修生活

入学は昨年の四月。二カ月間は通信教育で課題が与えられた。キューブラー・ロス著「死ぬ瞬間」やミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」などの本を読んでのレポートを提出した。

六月に入校。住まいはすぐ近くに寮があった。学科はホスピスに関する専門分野の勉強がほとんどであった。前期・後期と二回の学科試験があったが、クリアして実習へと進んだ。実習の一週目は訪問看護、二週から八週までは病院のホスピス病棟で患者のケアを行ってきた。

認定看護師登録者数 平成16年8月1日現在

	救急看護	重症集中ケア	WOC看護	ホスピスケア	がん疼痛看護	がん化学療法看護	感染管理	糖尿病看護	不妊看護	合計
北海道	4	12	10	4	5	5	5	2	1	48
全国	110	245	310	101	163	68	196	57	26	1256

(社団法人日本看護協会)

今年一月の卒業試験も合格。三月の卒業後、五月に最後の試験となる認定看護師認定審査に挑んだ。試験は「こういう患者さんには、あなたならどんなケアをしますか」という記述式ばかりが並んでいた。「試験は難しかったです。でも、学んだこと、考えてきたことをすべて書き尽くしました」

二年間に及んだ挑戦の日々が終わった。

昨年十二月に函館おしま病院へ赴任

函館おしま病院に赴任したのは昨年十二月。今年四月にはホスピス病棟がスタートした。

「新しいホスピス病棟を立ち上げるのに魅力を感じた」ことに加えて、栄光病院と一緒に仕事をしていた福徳先生が院長であることも、函館行きを後押しさせた。

「九州でも函館でも仕事に対しての取り組み姿勢は変わりません。スタッフはホスピス未経験者がほとんどで、ひとつひとつのことをみんなて話し合いながら進めています。過去の経験を伝えていますが、一緒に考えたいですね。そして認定看護師になるために学んだことを少しでも仕事に活かせるようにしたいと思っています」

[特集]

住み慣れた自宅は 末期がん患者の生きる場所

末期がんの在宅医療の普及には開業医個人の力では限界があり、病院など専門機関によるバックアップ体制や病診連携・訪問看護ステーションとの連携をもととした地域医療のネットワークによるチーム医療が必要となる。



函館訪問看護ステーション所長
笹原 理恵



北美原クリニック院長
岡田 晋吾



はら内科クリニック院長
原 信彦



西部大山医院院長
大山 仁



かたやま内科消化器科院長
片山 英昭



函館おしま病院理事長・院長
福德 雅章

●欧州のホスピスは在宅が中心

三年前の三月十七日付の日本経済新聞の切り抜きを、ずっと部屋の壁にピンでとめていた。すでに黄色く色褪せたその記事は生活家庭欄に載っていたもので、内容はホスピス発祥の地のアイルランドと英国のホスピスを視察した報告記である（見出しは「欧州ホスピス事情、終末ケアは在宅が中心」で、筆者は尾崎雄氏）。

ダブリン北部にある聖フランシス・ホスピスでは、十九床のベッドのうち二つは、家族が世話をできないなどの事情で、在宅患者が一時的に入院する時（レスパイト・ケア）のために空けてある。同ホスピスが一九九九年にかかわった終末期患者は四百三十一人だったが、うち自宅で亡くなった人は二百四十二人と過半数に達した。ダブリン南部のアワレディース・ホスピスも同様で、入院定員三十六人に対して常時百人から百二十人の在宅患者を、十二人の訪問看護師と二人の医師からなるチーム

ムがケアし、毎週火水木の三日間、デイケアを実施している。

ロンドンの聖クリストファー・ホスピスも在宅ケアが中心で、一九九九年にかかわった在宅患者千二百人のうち自宅、ホスピスで看取られた人がそれぞれ四〇%台、病院での看取りは二〇%にも満たない。記事はこうしたホスピスの実情と共に、英国ではホスピスが新たに受け入れる患者は年間四万人（推定）に対して、訪問看護師がケアをする新たな患者は同十万人（同）。そして、平均在院日数が十三日であるとの数字も紹介、

ホスピスのベッドの使用目的が主としてレスパイト・ケア用であること、ホスピスは在宅ホスピスケアのサポート施設であることを表している」と書かれていた。

●日本ではようやく増えてきた末期がんの在宅医療

平成八年以降、日本でのがんの死亡総数に対する割合は三〇%を超えた。つまり、三人に一人はがんで亡くなる時代となっている。がんは医学の進歩などによって



不治の病ではなくなっているが、末期がんについては患者のQOLを重視した緩和ケアへの関心が高まってきた。

日本では緩和ケアを行う専門の施設であるホスピスも全国に増えているが、「家で死にたい」「暁の上で人生の終わりを過ごしたい」との願いをかなえる医療はまだまだ普及していないのが現状であった。しかし、各地域で末期がん患者を在宅で最後まで看取る「在宅ホスピスケア」に取り組む医師や医療機関が少しずつではあるが増えてきている。

医療ではよくQOLという言葉が使われるが、末期がんの患者にとっては、住み慣れた自宅で家族と一緒に暮らすことこそ、QOLが高められるに違いない。

●在宅ホスピスケアの担い手は訪問看護師

函館でも末期がんの患者が在宅を希望することがあり、開業医の中にはそうした患者を積極的に支援する医師もいる。ただ、これま

で患者やその家族には、選択肢として在宅が可能だということを知らない人も多かったはずだ。函館におけるがんの在宅医療は、開業医の医師が訪問看護ステーションなどとの連携で行っているが、末期がんを積極的に診るといふ医師はまだ少ないのが実態だ。

「がんの在宅医療」(坪井栄孝監修、田城孝雄編著、中外医学社)には、福島県いわき市にある福島労災病院の末期がん患者の在宅医療への取り組みが紹介されている。それによると、同病院では緩和医療を念頭においたがん医療の一環として在宅医療を積極的に推進、末期がん患者の約半数に在宅医療を提供し、その約八割がそのまま自宅で家族に看取られて亡くなっている。

そして在宅ホスピスケアの担い手は訪問看護師であること、在宅ホスピスケアに必要な症状緩和治療の知識と技術をもった訪問看護師とかがりつけ医との連携で在宅ホスピスケアの医療のシステムは構築できると断言、このことは同病院の訪問看護師の働きをみてのことだという。

●東札幌病院の在宅ホスピスケアのシステムづくり

東札幌病院(札幌市白石区)での在宅ホスピスケアのシステムづくりについては、「ホスピスのころ」(石垣靖子著、大和書房)に書かれている。著者の石垣靖子さんは東札幌病院の看護部長として終末期の医療にたずさわるようになって二十年近くになる(現在は同病院の副院長)。

東札幌病院では、在宅ホスピスケアの大きい要望に応えるため、一九八九年に「ホスピタル・ウィズアウト・ウォール」(壁のない病院)の理念のもと、在宅ホスピスケアを開始した。在宅でも病院にいるときと同じように、必要な医療サポートが受けられることを保証したシステムづくりを行うことが大切であるとし、そのためには在宅ケア部門を病院全体で支援する体制をとる、チーム医療を基盤としチーム内の合意形成を大切にする、個々の患者のケア・マネージメントは在宅ケアナースの役

割とすることの三点を重視したと指摘する。

末期がんの在宅医療の普及には開業医個人の力では限界がある。病院など専門機関によるバックアップ体制や病診連携や訪問看護ステーションとの連携をもととした地域医療のネットワークによるチーム医療が必要となるであろう。

●患者自身が自分の生き方を選択できる時代

患者はその症状や希望に応じて病院、ホスピス、在宅を選択する時代、患者自身が自分の生き方を選択できる時代を迎えている。しかし、末期がんの在宅医療ではすべてのがんの患者にそれが適応されるとは限らない。しかも、告知の問題や患者への精神的支援、家族のケアなどクリアすべき課題もまた多い。

今回の特集は在宅を希望する患者やその家族が安心して過ごすために日夜、訪問医療を続けてきた函館の訪問看護師や医師への取材インタビューの報告である。

後方病院がある方が望ましいと思います。現実的には、患者さんは大きな病院で診断を受け、その上で末期がんであることを知る場合が多く、その時の主治医と折り合いが悪い場合を除けば、何かあってもその病院で受け入れてもらえます」

●在宅医療を希望する患者やその家族が安心して過ごすためには、どんな点が課題として挙げられるのでしょうか。

原「在宅にこだわりすぎないこと。また、希望があれば遠慮しないで主治医に告げてもらうこと。僕自身このように偉そうに述べていますが、実際の患者さんの思い・家族のつらさをどの程度理解しているか不安でたまりません。函館のような大都市でも、もともと在宅医療の勉強ができるように、そして医療者同士のネットワークで情報交換等が行われると良いですね。

本当は医学部の勉強項目に入れたいくらいと思っています。また設備の面では、大きな病院でPCUと呼ばれる疼痛緩和病棟みたいなものを持つてくれると助かるのですが、なかなか実現しないようです」

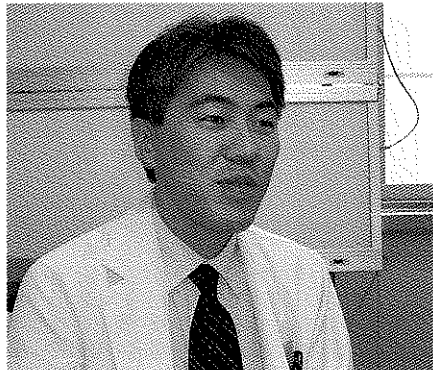
福德 雅章

函館おしま病院理事長・院長

ホスピスとは、末期がんの方が、最後までその人らしく生き抜くことを支援するプログラム

●がんの在宅医療が注目されています。函館でも末期がんの患者が在宅を希望することがあり、開業医の中にはそうした患者を積極的に支援する医師もいます。ただし、患者やその家族には、選択肢として在宅が可能だということを知らない人も多いのではないのでしょうか。

福德「末期がんの方が在宅で過



ごされる場合にはいくつかのパターンがあると思います。最後まで家でどうしても過ごしたい場合。症状が強くなってきたら、入院を選択される場合。逆にずっと入院されていたのに、最後の時間は家で過ごしたいという場合。どんな形でも、在宅で過ごすことができるといことをまず、皆さんに知ってもらいたいと思います。そのためにも、まず一般病院での医療スタッフ、特に医師がそういう選択肢があるということを患者やご家族に提示していかないと難しい場合があります。多くの方々が、在宅で支援できることをお話しすると、「そんな方法があるとは知らなかった」という場合が実に多いからです」

●末期がんの患者が在宅で過ごす場合、在宅ホスピスケアという言い方をしています。福德先生にはホスピスが「もてなしの場」であったという歴史もお聞きしていますが、ホスピスという言葉からは、どうしても施設や病院などの建物を連想してしまいます。

福德「ホスピスとは、末期がんの方が、最後までその人らしく生き抜くことを支援するプログラムです。即ち、その人の自己決定権を尊重し、身体的な部分だけでは

誰もが安心して暮らせる家を目指し、この下宿をつくりました。見学のみの方も歓迎いたします。

人居者募集

ケア付き下宿

ひだまりの家

函館市松陰町17番4号
TEL.0138-53-2848 FAX.53-2884

なく、全人的に支援しますし、傍に寄り添うご家族も同じように支えます。この「ホスピス」が提供される場合は、病院、施設から在宅まで、色々な形があると思います。が、やはり多くの方は住み慣れた自分の家（環境）で、愛する家族（ペットも含む）に囲まれて、自分のペースで過ごしたいのだと思います。ただ、それを実現するためには、私たち医療者が痛みを始めたとする症状のコントロールを保障することが最低限必要となります。在宅でもどういう医療や看護が提供できるのか、症状が起きた時にはどういう対応ができるのか、など、不安を取り除く必要がありますし、介護の中心であるご家族の気持ちや健康状態も考慮すべき

ふくとく・まさあき
 昭和36年函館市生まれ。
 金沢医科大学卒業後、同大学血液免疫
 内科助手や同大学血液センターの副部
 長を兼任。平成10年には栄光病院(福岡
 県)に勤務。平成14年1月から函館おし
 ま病院(旧渡島病院)に勤務、2月より
 同病院の理事長・院長に就任。
 日本内科学会、日本血液学会、日本臨床
 血液学会、日本リウマチ学会、日本緩和
 医療学会、日本サイコオンコロジー学会、
 日本死の臨床研究会、日本シェーグレン
 症候群研究会

かと思えます。
 キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」の中に、次のような文章があります。「患者がその生の終わりを住みなれた愛する環境ですごすことを許されるならば、患者のために環境を調整することはほとんど無理な家族はかれをよく知っているから、鎮痛剤の代わりにかれの好きな一杯のブドウ酒をついでやるだろう。家で作ったスープレの香りはかれの食欲を刺激し、二さじか三さじ、液体がノドを通るかもしれない。それは輸血よりも、かれにとってははるかに嬉しいことではなからうか」。まさに、在宅ホスピスの意義はここにあるのだと思います」

●函館おしま病院では四月にホスピス病棟を開設しています。そのホスピス(病棟)が決して人生最後の場所ではないということをお聞きしていますが、ホスピスから在宅へという例はあるのでしょうか。

福徳「ホスピスに入院された後、退院となり訪問診療に切り替えて診療を続けている方もおられます。一つには、入院当初にあった疼痛などの症状が緩和され、ご自宅で過ごすことが可能となった場合です。もう一つは、病状の進行とともに、逆に「家に帰りたい」という思いが強くなったために、準備を整え、在宅で最後まで過ごされる場合です。前者の場合は、「ホスピス」は決して、「最後の時を過ごす場所」を意味するものではない、ということが分かります。後者は、やはり自分の病気をよく理解し、死と向き合いながら過ごされている方に多いように思います。

最初にお話した通り、「ホスピス」とは場所ではなく、ケアのあり方で、プログラムでもありません。それを実践する場はどのような形でもいいわけですから、あとは患者やご家族がそれぞれの局面で選択

していけばいいと思います。最初から最後まで病院であるとか、最初から最後まで在宅であるとか、こだわらなければならないと思います。ホスピスから自宅へ戻り、亡くなられた方との出会いは今も忘れません。ある四十八歳の女性は、介護者が日中不在の中、在宅にこだわり続けました。それは中学生の息子さんを、母親として学校に「行ってらっしゃい」と送り出し、「お帰りなさい」と迎えたかったからです。ある六十九歳の男性は、自分の部屋から真正面に見える雄

大な山々を眺めながら、息を引き取り、その後、妻と娘により大好きな焼酎で身体を拭いてもらいました。
 ある五十一歳の男性は、病院では見せたことの無い穏やかな表情で、山奥にある自宅で家族に感謝の気持ちを抱えながら最後の時間を過ごしました。いずれも、在宅ならではの場面であり、私はこの方たちの病院では見られなかった姿、表情、言葉に接した時、「やっぱり在宅が一番いいなあ」と正直思いました」

光があたるだけで悪臭を半永久的に分解！
 光触媒加工によるお花です。

魔法の蘭

除菌・抗菌・消臭の革命的な
 3つの環境浄化作用！

一般小売価格→18,800円(税込)のところ
特別限定予約価格
9,800円 (税込)

◆さまざまな場面でお使いいただけます◆
 お誕生日・結婚祝い・出産祝い・入学祝い・就職祝い・新築祝い・開店祝い
 お見舞い・快気祝い・母の日・父の日・表彰祝い・受賞祝い・長寿祝い
 還暦祝い・敬老の日・勤労感謝の日・クリスマス・お中元・お盆・お歳暮
 企業の○○周年記念品として、ゴルフコンペの景品として
 イベント催事キャンペーンのプレゼントなど

お問い合わせ先・販売代理店
 本社：フローラルファクトリー株式会社/函館市西橋通り246-128 ☎(0138)48-7801
 フォレット昭和店/函館市昭和1丁目29-2 ☎(0138)45-0481
 フォレット七飯店/亀田郡七飯町大川2丁目1-3 ☎(0138)64-2010
 フォレット森 店/茅部郡森町字森1丁目228-18 ☎(01374)2-4020
 フラワーアレンジスペース彩美/函館市本町3-14 ☎(0138)30-3121